

**tc electronic**

## Desktop Konnekt 6



**ユーザーマニュアル**

*Japanese Version*




## 重要 - 安全のために



正三角形に括られた矢印付きの落雷マークは、人体に対して電気ショックを与える、危険な高電圧の絶縁されていない部品が本体内部に配置されていることを示します。



正三角形に括られた「！」サインは、本体の使用上、あるいはサービス／メンテナンス上で、重要な情報が製品に同梱の書類に含まれていることを示します。

- 1 必ずお読みください。
- 2 この書類は手の届くところに保管してください。
- 3 全ての警告をお守りください。
- 4 全ての指示に従ってください。
- 5 本機を水気の近くで使用しないでください。
- 6 本体の手入れは、乾いた布で乾拭きしてください。
- 7 通風に必要となる本体の開口部は塞がないでください。本体の設置は、製造者の指示に従ってください。
- 8 ラジエーター、ヒート・レジスター、暖房機具、音響用アンプリファイア等、またそれに限定されないあらゆる熱を発生する機器の近くに設置しないでください。
- 9 極性プラグ、あるいは接地プラグの安全機構に手を加えないでください。極性プラグは、二つの金属ブレードの内、片側が大きく設計されています。  
接地プラグは、二つの金属ブレードに加えてアース用のピンがございます。これらは、安全のための機構です。付属のプラグがコンセントの形状に合わない場合は、最寄りの電気工事業者までご相談ください。
- 10 電源ケーブルとプラグは、踏み付けられたりはさまれたりしない様に設置してください。特に、プラグとコンセント、そして本体と電源ケーブルが接続される周りにはご注意ください。
- 11 本機に設置するアクセサリーや装着器具は、製造者指定のもののみをご使用ください。
- 12  カート、スタンド、三脚、ブラケット、テーブルは製造者が指定するもののみを使用してください。カートを使用した移動の際には、カートと荷物の組み合わせと荷物の落下による事故にご注意ください。
- 13 落雷を伴う天候の場合、あるいは本機を長期間使用されない場合は、本機の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 14 本体の点検・修理が必要となった場合は、必ず認定技術者までご連絡ください。付属の電源ケーブルやプラグが破損した、液体を本体にこぼした、雨や過度の湿度にさらした、本体シャーシ内に異物が入ってしまった、本体の動作異常が生じた、本体を落としたなど、原因に関わらず本機に破損が生じた場合はサービスが必要です。

### 警告！

- 本体に水が垂れたり跳ねる環境での保管・使用は避け、花瓶等液体の入った物を本体の上に置かないでください。電気ショック、あるいは火事等の恐れがあります。
- 必ずアースを正しく接続してください。
- 製品に同梱されているのと同様の、アース付3芯の電源ケーブルを使用してください。
- 適切な電源ケーブルとプラグ形状・動作電圧は地域によって異なります。
- 以下の表に従い、各地域の規格に準拠した電源ケーブルを使用してください。

Voltage	Line plug according to standard
110-125V	UL817 and CSA C22.2 no 42.
220-230V	CEE 7 page VII, SR section 107-2-D1/IEC 83 page C4.
240V	BS 1363 of 1984. Specification for 13A fused plugs and switched and unswitched socket outlets.

- 本機は、電源ケーブルの抜き差しが容易に行える、コンセントの近くに設置してください。
- 主電源から完全に絶縁するには、電源コードをコンセントから外してください。
- パワーサプライの主電源プラグは容易に操作できる様にしてください。
- 閉じられた空間に設置しないでください。
- 本体を開けしないでください。人体に対して有害な高電圧の電気ショックの恐れがあります。

### 注意

本マニュアルに明示されていない本体への変更・改造を行った場合、本機器を操作する権利を失うことがあります。

### サービスについて

- 本体内にユーザ保守可能なパーツはございません。
- サービスが必要となった場合は、必ず認定の技術者までご連絡ください。

# EMC / EMI & CERTIFICATE OF CONFORMITY - 海外準拠規準に基づく記載

## EMC / EMI

本機器はFCC規準 Part 15 に準ずる Class B デジタル機器の制限事項に適合するための試験に合格しています。

これらの制限事項は、居住地域での設置時に生じうる有害な電波障害を規制するために制定されたものです。本機器は無線周波エネルギーを生成・使用しており、これを放射することがあります。指示に従った設置と使用を行わないと、無線通信に障害を及ぼす可能性があります。しかしながら、特定の設置状況において電波障害を起こさないという保証はありません。本機器がラジオやテレビの受信に障害を与えていないかを判断するには、本機器の電源を落としてから再投入してください。障害を及ぼすことがわかった場合、次の方法で障害の解消を試みることを推奨します。

- 受信アンテナの方向、設置場所を変更する
- 本機器と受信機の距離を遠ざける
- 本機器を受信機とは別の系統の電源回路に接続する
- 必要に応じて、販売代理店、または経験のある無線／TVの専門技術者に問い合わせてください。

## FOR CUSTOMERS IN CANADA:

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.  
Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.  
本 Class B 電子機器は、カナダ ICES-003 に準拠しています。

## Certificate of Conformity

TC Electronic A/S, Sindalsvej 34, 8240 Risskov, Denmark, hereby declares on own responsibility that the following product:

### Desktop Konnekt 6

that is covered by this certificate and marked with CE-label conforms with following standards:

- EN 60065 Safety requirements for mains (IEC 60065) operated electronic and related apparatus for household and similar general use
- EN 55103-1 Product family standard for audio, video, audio-visual and entertainment lighting control apparatus for professional use. Part 1: Emission.
- EN 55103-2 Product family standard for audio, video, audio-visual and entertainment lighting control apparatus for professional use. Part 2: Immunity.

With reference to regulations in following directives:  
73/23/EEC, 89/336/EEC

Issued in Risskov, March 2008  
Mads Peter Lübeck  
Chief Executive Officer

## **イントロダクション**

重要 – 安全のために .....	a
海外準拠規準に基づく記載 .....	b
目次 .....	3
はじめに .....	4
主な機能 .....	5
クイック・セットアップ・ガイド .....	6

## **セットアップ例**

マイク+インストゥルメント .....	7
デュアル・インストゥルメント .....	8
ステレオ・イン .....	9

## **概要**

フロントパネル .....	10
リアパネル .....	13

## **TC NEAR コントロールパネル**

MIXER - ミキサー・ページ .....	14
M40 スタジオ・リバーブ .....	16
SETUP - セットアップ・ページ .....	19
SYSTEM SETTINGS / SYSTEM - システム・セッティング/システム・ページ .....	21
SYSTEM SETTINGS / WDM - システム・セッティング/WDM ページ .....	26

## **付録**

FAQ .....	28
ヒント .....	28
キーボード・ショートカット .....	28
ソフトウェアのアップデート .....	28
FireWire バスパワー .....	29
FireWire ケーブルの抜き差し .....	29
技術仕様 .....	30

# はじめに

---

## Desktop Konnekt 6 - 音楽をキャプチャーする最短距離

### Firewire オーディオ・インターフェイス/モニター・コントロール

Desktop Konnekt 6 は、作業パフォーマンスの向上にフォーカスしたデスクトップ・デザインのオーディオ・インターフェイス。その内に秘められたテクノロジーとクオリティーは、Konnekt シリーズならではの高性能/高品位を誇ります。思い立ったその瞬間、すぐレコーディングにとりかかれる利便性と操作性を実現します。

アクティブ・モニターやヘッドホンを直接接続してモニター・レベルを手元で自在にコントロールできるボリューム・コントロール・ノブ、視認性に優れたレベル・メーター、レコーディング時のモニタリングに重宝するハードウェア・クオリティーのスタジオ・リバーブ、高品位マイクプリアンプ IMPACT™ — Desktop Konnekt 6 にはレコーディングに必要な機能が凝縮されています。

Desktop Konnekt 6 のユニークなデザインは、卓上でのイージー・オペレーションを可能にするだけでなく、ただそこにあるだけでつつい使ってみたいくなる魅力に溢れる存在となることでしょう。

### Hands-on Design

「シンプルな操作感」という聞き慣れた言葉も、ここでは新しい意味をもちます。難解なマニュアルを解読しながら操作に四苦八苦する必要はない、直感的な操作感を実現しています。

### 大型ボリューム・コントロール

操作性に優れたボリューム・コントロールも Desktop Konnekt の大きい特徴の一つです。万一の PC トラブルの際にも、即座にボリュームを絞ることができます。

### IMPACT™ - マイク・プリアンプ回路テクノロジー

TC のマイク・プリアンプは市場で高い評価を得ています。Desktop Konnekt 6 はヴォーカルやギターのレコーディングに威力を発揮する IMPACT™ プリアンプを搭載しています。インストゥルメント・インプットは TC のハイエンドなギター・プロセッサーと同じもので、ソースを問わずスタジオ・クオリティのレコーディングを可能とします。

### 高解像度メーター

レベル管理になくてはならないレベルメーターには視認性の高い LED を配置し、用途に応じて 3 種類のレベル監視が切り替えられます。(インプット・レベル/アウトプット・レベル/マスター・レベル)

### M40 スタジオ・リバーブ

Desktop Konnekt 6 には、ハードウェア機のクオリティと再現性をネイティブ環境で実現する TC の新技術 AlgoFlex™ を採用した M40 スタジオ・リバーブが付属しています。操作は本体のリバーブ・ノブかソフトウェア・コントロールパネルから行なえ、収録テイクに影響を与えることなくトラックング時のモニター用に使用することができます。ネイティブの VST / AU プラグインとしても使用でき、PC / Mac 環境のセッション内で使用できます。

# 主な機能 - DESKTOP KONNEKT 6

---

## 付属ソフトウェア

ダイレクト・モニター・ミキサーとリバーブ操作用の TC NEAR コントロールパネル

## 付属エフェクト

M40 スタジオ・リバーブ (PC / Mac 対応)

## 主な機能

- 大型ボリューム・コントロール
- IMPACT™ マイク・プリアンプ、48V ファンタム・パワー対応
- 高解像度メーター
- M40 スタジオ・リバーブ
- ダイレクト・モニター・コントロール (インプット / DAW コントロール)
- 独立レベル・コントロール / 独立ソース対応ヘッドホン・アウト
- マイク + インストゥルメント / インストゥルメン + インストゥルメント / ステレオ・ラインの入力構成に対応
- ハイエンド・ギター・プロセッサーで定評ある TC 製トゥルー Hi-Z ギター・インプット
- バランス・ステレオ・アウトプット
- TC NEAR™ 互換 : Konnekt シリーズの他製品と組み合わせ可能
- シーン・リコール
- スピーカー・ディム用の DIM スイッチ
- ダイレクト・モニターを直感的にコントロールできるコントロールパネル
- VST/AU 互換
- デスクトップ型のデザイン
- FireWire 1394、バスパワー対応
- DICE™ デジタル・インターフェイス・チップ、JetPLL™ ジッター・エリミネーション・テクノロジー
- Mac / PC の WDM / ASIO / CoreAudio に対応したロー・レイテンシー・ドライバー
- 24 ビット / 192 kHz サンプルレート



# クイック・セットアップ・ガイド

## 所要時間 10分のクイック・セットアップ

本クイックガイドでは、DESKTOP KONNEKT 6を一般的な用途向けにセットアップする手順を解説します。設定の詳細については、本マニュアルで後述の各セクションをご参照ください。

### 開梱

- 製品外箱を開き、ケーブルを取り出します。
- 両手で Desktop Konnekt を取り出します。
- Desktop Konnekt のビニール袋を外します。
- Desktop Konnekt 本体に搬送による破損等が見られないことを確認します。
- 本体が破損している場合は、宅配業者と販売店にご相談ください。
- 本体が破損している場合は、全ての梱包物を保管してください。これらは、搬送時に過度の衝撃等が加わったことの証明として使用できます。
- 将来的な搬送の可能性に備え、全ての梱包物を保管しておくことをお勧めいたします。

### 梱包物の確認

次の梱包物が含まれていることをご確認ください。

- Konnekt オーディオ・インターフェイス本体
- パワーサプライ
- FireWire ケーブル
- ソフトウェア等を含む DVD
- Konnekt インストール・ガイド

## 動作環境

### MAC

- PowerPC (1 GHz 以上) または Intel CPU 搭載機
- 最低 256MB RAM
- FireWire (IEEE 1394) ポート \*
- OS X 10.4.11 または 10.5

### WINDOWS

- Pentium 4、1.6 GHz 以上
- 最低 256 MB RAM
- FireWire (IEEE 1394) ポート \*

- Windows XP
- \* Konnekt は、専用の FireWire バスでを使用することを推奨します。コンピュータに複数の FireWire 端子が用意されている場合でも、それらは通常全て単一のバスに接続されています。Konnekt はいずれの端子にも接続できますが、外部ハードディスク等の機器を接続する場合はそれらの機器を別のバスに接続することを推奨します。通常、この増設は FireWire PCI カードなどで行います。この場合も、一般的には複数の端子を搭載していますが、それらは単一のバスで作動します。

### ソフトウェアのインストール

- ソフトウェアのインストールは必ず Konnekt を接続する前に行なってください。
- Konnekt のパッケージまたは DVD に含まれる **Konnekt インストール・ガイド**をご参照ください。
- ソフトウェアのインストールに詳しい場合は、DVD をドライブに挿入し、指示に従ってインストールを進めてください。

### TC NEAR コントロールパネル

Konnekt ドライバーが正しくインストールされている場合、TC NEAR コントロールパネルを起動させることができます。

#### Mac 機の場合:

／アプリケーション／TC Near を開きます。

システム環境設定からアプリケーションを起動させることも可能です。

#### Windows 機の場合:

スタート／プログラム／TC Electronic / TC Near を開きます。

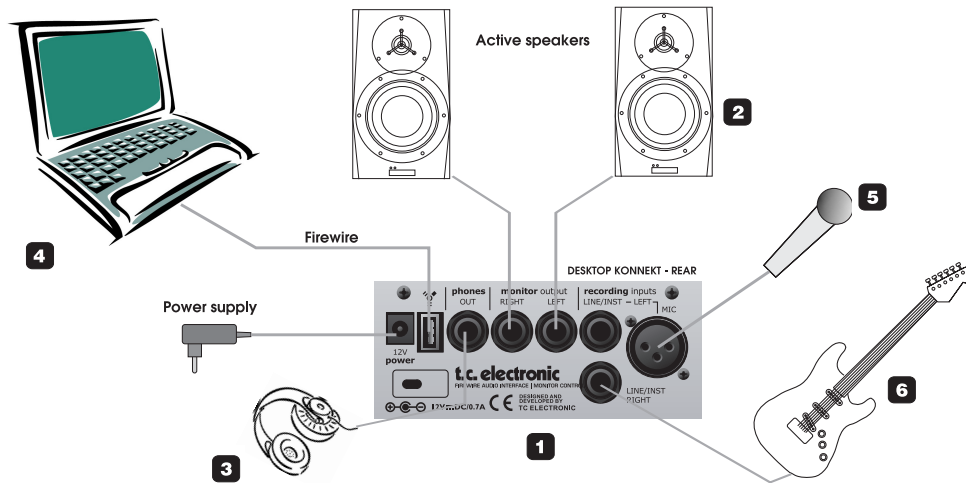
Windows コントロールパネルからアクセスすることも可能です。



www.tcelectronic.com でソフトウェアとマニュアルの最新バージョンを使用していることを確認することをお勧めいたします。



# セットアップ例 - マイク+インストゥルメント



## 1 DESKTOP KONNEKT 6 - リアパネル

Desktop Konnekt 6 のリアパネルです。

## 2 ACTIVE SPEAKERS - アクティブ・スピーカー

このセットアップでは、モニター・アウトにアクティブ・モニターが接続されています。もちろん、ミキサーへのステレオ入力や、ハイファイ・アンプに接続してもかまいません。

## 3 HEADPHONES - ヘッドホン

ヘッドホンを接続するための端子です。レベルは、いくつかの方法で調節できます。デフォルトでは、フロントパネルの Phones ノブでヘッドホンのレベルをコントロールします。TC NEAR コントロールパネルの Setup ページから、フロントパネルの大型ボリューム・ノブでヘッドホンのレベルを変える設定が行えます。

大型ボリューム・ノブをヘッドホン・レベルにアサインした場合でも、ヘッドホンの最大レベルは Phones ノブの設定によって制限されます。

個別にレベル・コントロールを行う方が便利な一般的な場面としては、シンガーがレコーディング・ルームでヘッドホンのモニタリングを行いながら、レコーディング担当がコントロール・ルームにいる場合などが考えられます。

レベル・コントロールをリンクさせる方が便利な一般的な場面としては、一人でコンピュータの前で歌いながらレコーディングを行う場合などが考えられます。この場合は、大きいノブの方が楽に操作を行えるでしょう。

## 4 COMPUTER - コンピュータ

FireWire インターフェイスを装備したラップトップまたはデスクトップ・コンピュータを使用できます。詳しくは、本マニュアルの「動作環境」セクションをご参照ください。

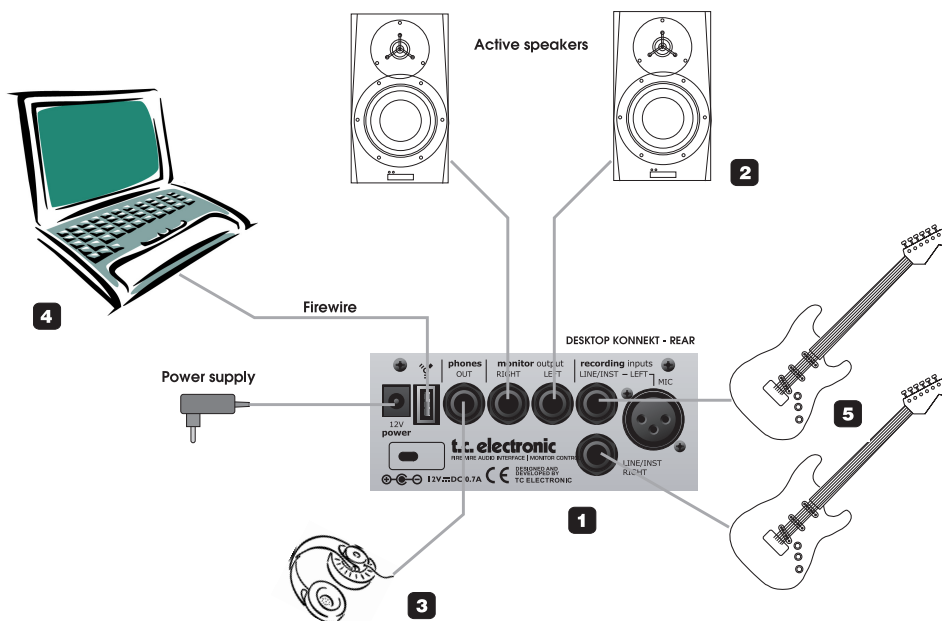
## 5 MICROPHONE - マイク

Desktop Konnekt にはダイナミックまたはコンデンサー・マイクを接続できます。ファンタム・パワーを供給する場合は、TC NEAR の Mixer ページにあるチャンネル・ストリップの +48V オプションをオンにします。楽器の音量とマイクの出力レベルによって、TC NEAR の Mixer ページにあるブースト機能を使用します。

## 6 GUITAR - ギター

Line/Inst ジャックにギター/ベース/ラインレベルの楽器を接続します。インストゥルメント・インプットは Hi-Z で、アクティブとパッシブ両方のエレキギター/ベースを接続できます。

## セットアップ例 - デュアル・インストゥルメント



### 1 DESKTOP KONNEKT 6 - リアパネル

Desktop Konnekt 6 のリアパネルです。

### 2 ACTIVE SPEAKERS - アクティブ・スピーカー

このセットアップでは、モニター・アウトにアクティブ・モニターが接続されています。もちろん、ミキサーへのステレオ入力や、ハイファイ・アンプに接続してもかまいません。

### 3 HEADPHONES - ヘッドホン

ヘッドホンを接続するための端子です。ヘッドホンのレベルは、いくつかの方法で調節できます。デフォルトでは、フロントパネルの Phones ノブでヘッドホンのレベルをコントロールします。TC NEAR コントロールパネルの Setup ページから、フロントパネルの大型ボリューム・ノブをヘッドホン・レベルにリンクできます。

個別にレベル・コントロールを行う方が便利一般的な場面としては、シンガーがレコーディング・ルームでヘッドホンのモニタリングを行いながら、レコーディング担当がコントロール・ルームにいる場

合などが考えられます。

レベル・コントロールをリンクさせる方が便利一般的な場面としては、一人でコンピュータの前で歌いながらレコーディングを行う場合などが考えられます。この場合は、大きいノブの方が楽に操作を行えるでしょう。

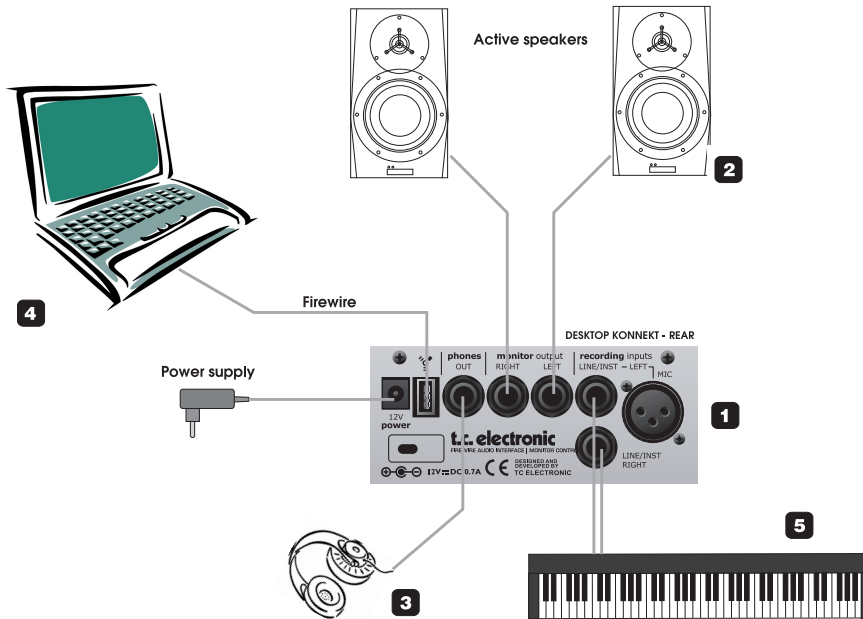
### 4 COMPUTER - コンピュータ

FireWire インターフェイスを装備したラップトップまたはデスクトップ・コンピュータを使用できます。詳しくは、本マニュアルの「動作環境」セクションをご参照ください。

### 5 INSTRUMENTS - インストゥルメント

ギター/ベース/ラインレベルの楽器をここに接続します。

## セットアップ例 - ステレオ・イン



### 1 DESKTOP KONNEKT 6 - リアパネル

Desktop Konnekt 6 のリアパネルです。

### 2 ACTIVE SPEAKERS - アクティブ・スピーカー

このセットアップでは、モニター・アウトにアクティブ・モニターが接続されています。もちろん、ミキサーへのステレオ入力や、ハイファイ・アンプに接続してもかまいません。

### 3 HEADPHONES - ヘッドホン

ヘッドホンを接続するための端子です。ヘッドホンのレベルは、いくつかの方法で調節できます。デフォルトでは、フロントパネルのPhones ノブでヘッドホンのレベルをコントロールします。TC NEAR コントロールパネルの Setup ページから、フロントパネルの大型ボリューム・ノブをヘッドホン・レベルにリンクできます。

個別にレベル・コントロールを行う方が便利な一般的な場面としては、シンガーがレコーディング・ルームでヘッドホンのモニタリングを行いながら、レコーディング担当がコントロール・ルームにいる場

合などが考えられます。

レベル・コントロールをリンクさせる方が便利な一般的な場面としては、一人でコンピュータの前で歌いながらレコーディングを行う場合などが考えられます。この場合は、大きいノブの方が楽に操作を行えるでしょう。

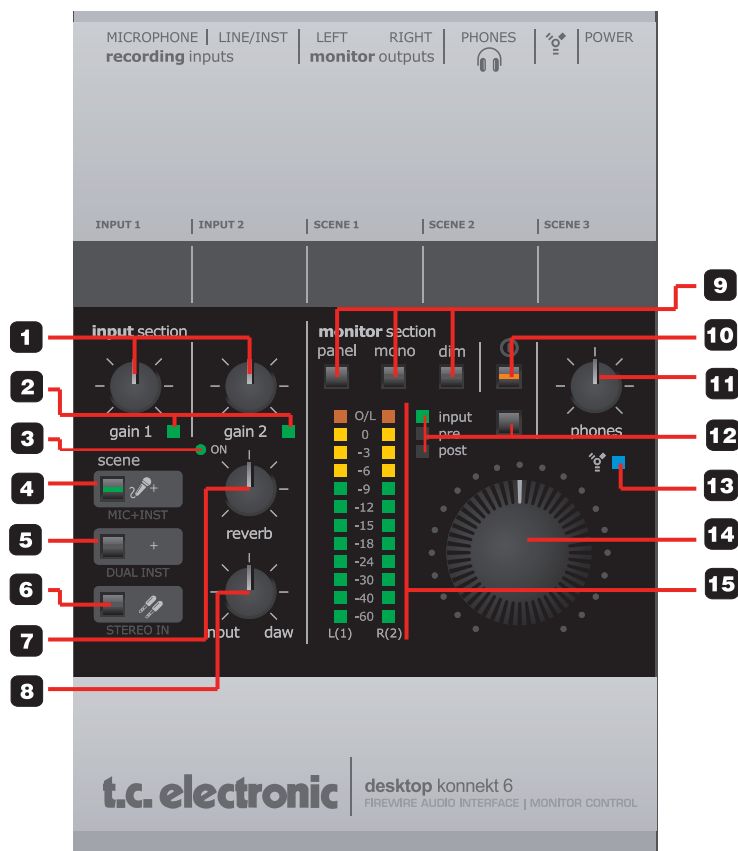
### 4 COMPUTER - コンピュータ

FireWire インターフェイスを装備したラップトップまたはデスクトップ・コンピュータを使用できます。詳しくは、本マニュアルの「動作環境」セクションをご参照ください。

### 5 STEREO SOURCE - ステレオ・ソース

この例では、ステレオ・ソースとしてキーボードを使用しています。

# フロントパネル



## 1 GAIN 1/GAIN 2 - インット・ゲイン・トリム

入力レベルを設定します。Meter スイッチ (12) で Input を選択します。次に、Gain 1/2 ノブを、クリップしない範囲で 0 dB に近いレベルまで上げます。

## 2 インット・オーバーロード LED

**グリーン**：信号が入力されていることを示します。

**イエロー**：レベルが -6 dB 以上であることを示します。理想的には、信号のピークでイエローが点灯するように設定します。

**レッド**：信号がホットすぎることを示します。接続元の出力レベルを下げるか、Gain を下げます。

## 3 ON - リバース・オン LED

この LED の点灯は、M40 スタジオ・リバースがアクティブであることを示します。Reverb ノブ (7) を下げると、リバースはオフとなります。ノブを時計回りに回すと、自動的にオンになります。

## 4 SCENE (MIC+INST) -

### シーン・セレクト (マイク+インストゥルメント)

Mic+Inst を選択すると、XLR Mic インプットにマイクを、Line/Inst Right インプット (1/4"ジャック) にラインレベルの楽器を接続できます。



## 5 SCENE (DUAL INST) -

### シーン・セレクト (デュアル・インストゥルメント)

Dual Inst. を選択すると、2つのインストゥルメントまたはライン・レベルのソースを Line/Inst Left と Line/Inst Right 1/4"ジャックに接続できます。信号は個別にプロセスされます。ギターとベースなど、モノラルの楽器を2系統同時に使用したい場合に選択します。

## 6 SCENE (STEREO IN) - シーン・セレクト (ステレオ・イン)

シンセサイザー等のステレオ・ソースを Line/Inst Left と Line/Inst Right 1/4"ジャックに接続できます。



複数のソースを扱う場合でも、配線を毎回変更する必要はありません。3つの入力端子にマイクとインストゥルメントを接続したままで、SCENE ボタンで使用する入力構成を選択できます。

## 7 REVERB - リバープ

M40 スタジオ・リバープのリターン・レベルを調節します。ノブを反時計回りに回しきると、リバープはオフとなります。オフの場合、リバープはCPUパワーを消費しません。リバープの設定は、TC NEAR コントロールパネルの Mixer ページにある Reverb パネルで行います。

## 8 INPUT/DAW - インプット/DAW ミックス

モニター・ミックスのバランスを設定します。Input は Desktop Konnekt のインプットに M40 リバープを施した信号、DAW はコンピュータの DAW からの信号です。



Input/DAW ノブを時計回りに回しきった状態 (DAW ミックスのみ) で、モニター・ミックスを DAW 内で行うことができます。この場合、Desktop Konnekt 6 からの信号がコンピュータを経由する際にレイテンシー (遅延) が生じます。レイテンシーの量は、ソフトウェアのバッファ設定に依存します。

Desktop Konnekt 6 では、Input/DAW を 50% に固定させ、DAW のモニター機能をオフにすることでレイテンシーを回避できます。

## 9 MONITOR SECTION - モニター・セクション

Panel (パネル) - コンピュータ画面の TC NEAR コントロールパネル表示を最大化/最小化します。

Mono (モノ) - Monitor アウトプットをモノラルにします。LED がオフの状態はステレオ、LED がオンの状態はモノラルとなります。

Dim (ディム) - マスター・ボリューム・コントロールで指定したレベルと、ディム (一時的にレベルを下げる状態) レベルを切り替えます。ディム・レベルの設定は TC NEAR コントロールパネルの Set-up ページで行います。

## 10 電源オン/オフ・スイッチ

電源がオフの状態ボタンを押すと、Desktop Konnekt 6 がオンとなります。電源がオンの状態でボタンを約一秒钟長押しすると、電源がオフとなります。

## 11 PHONES - フォーン・レベル

モニター・アウトとフォーン・アウトのレベルは個別に設定できます。このノブは、フォーン・アウトのレベルを指定します。フォーン・アウトのレベルを大型ボリューム・ノブにリンクさせることも可能です。このオプションの設定は TC NEAR コントロールパネルの Set-up ページで行います。

## フロントパネル

---

### 12 メーター・セレクト

(INPUT/PRE/POST - インプット/プリ/ポスト)

メーターの表示内容を選びます。

Input (インプット) - メーターはインプット段階での信号を表示します。インプットがまれなピークで0に点灯するかしないかの状態で最善のS/N比が得られます。レベルは、入力元の機器の出力か、Desktop Konnekt 6のGain 1/2 ノブで調節します。

Pre (プリ) - メーターは次の信号の合計レベルを表示します。

- ゲイン・トリム後のインプット
- リバース出力
- DAW 出力

Post (ポスト) - メーターはマスター・ボリューム・コントロール後のメイン・アウトプットのレベルを表示します。

### 13 FIREWIRE / パワー LED インジケーター

Desktop Konnekt 6 を FireWire 接続すると、次の通り、青 LED が作動状況を示します。

点灯: OK

点滅: ファームウェアのアップデート中であるか、ハードウェア・エラーまたは FireWire のコミュニケーション・エラーが生じていることを示します

オフ: ドライバーがインストールされていないなどの理由で、Konnekt がドライバーに正しくリンクしていないことを示します

点滅 (一回): 複数台の Konnekt を使用している場合、TC NEAR コントロールパネルのタブで機器を選択します。この際に、選択された Konnekt のブルー LED が一回点滅し、機器が選択されていることを示します。

### 14 マスター・ボリューム

モニター・アウトのマスター・ボリューム・コントロールです。ノブの内部には赤 LED が内蔵され、レベルを表示します。レベルが高い程、LED の彩度があがります。



Setup ページで LED をオフにすることも可能です。

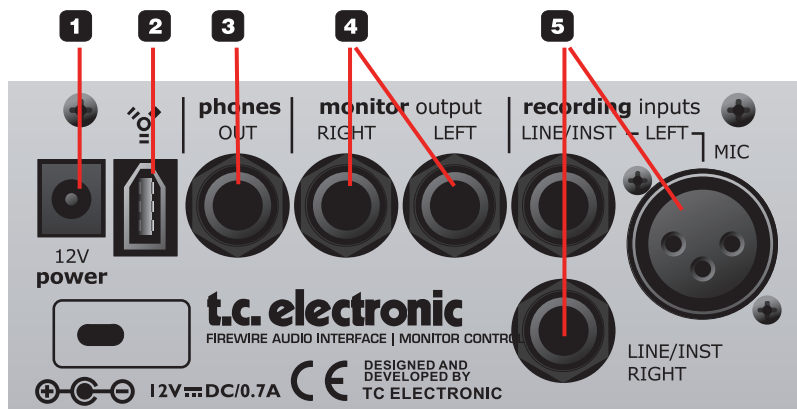
### 15 メーター

3 カラーの LED メーターです。

グリーン -60 ~ -9 dB

イエロー -9 ~ 0 dB

レッド オーバーロード



## 1 12V POWER - パワー (電源入力)

付属のパワースプライ、または同等の仕様のものをご使用ください (12V DC 0.7A)。

## 2 BUS-POWERED FIREWIRE - バスパワー FIREWIRE コネクター

Desktop Konnekt 6 をコンピュータと接続するための IEEE 1394 コネクターです。

Desktop Konnekt 6 は、コンピュータの FireWire 端子からバスパワーで駆動させることができます。本マニュアルの付録を必ずご一読ください。



FireWire コネクターを接続する際には、必ず端子を正しい向きで挿入してください。

## 3 PHONES OUT - フォーン・アウト

ヘッドホンを接続するための 1/4" TRS 端子です。ヘッドホンのレベルは、通常 Phones ノブで調節します。TC NEAR コントロールパネルの Setup ページから、フロントパネルの大型ボリューム・ノブでヘッドホンのレベルを変える設定を行えます。大型ボリューム・ノブをヘッドホン・レベルにアサインした場合でも、ヘッドホンの最大レベルは Phones ノブの設定によって制限されます。



## 警告！

ヘッドホンやイヤホンを過度の音量で使用すると、聴覚障害の原因となります。

## 4 MONITOR OUTPUT - モニター・アウトプット

バランス・アウト端子です。アクティブ・スピーカーか、パッシブ・スピーカー用のアンプまたはミキサーに接続します。

## 5 RECORDING INPUTS - レコーディング・インプット

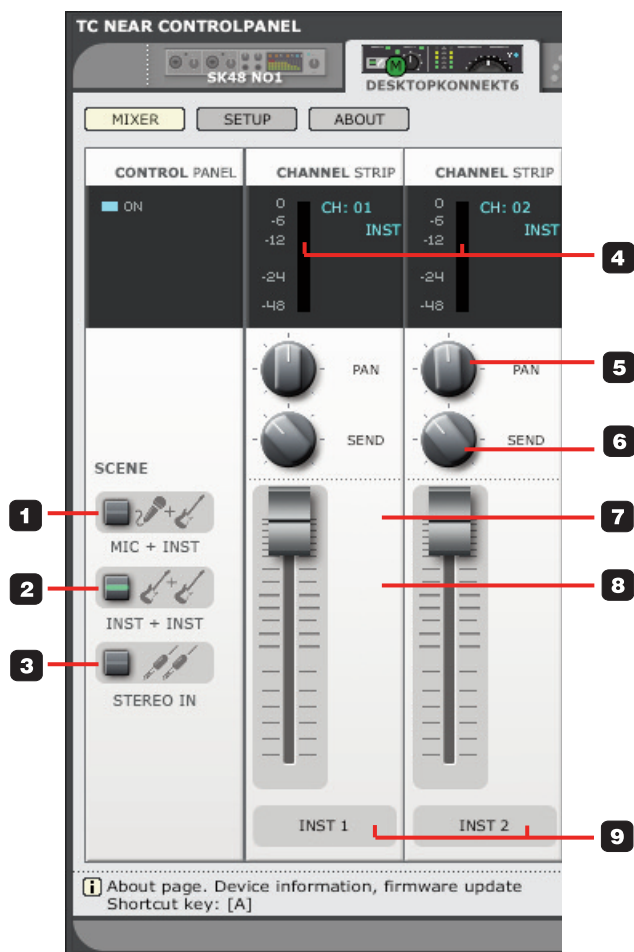
- ラインレベルまたは Hi-Z 用の LINE/INST 1/4" ジャックには、エレキギター／ベースやラインレベルの楽器を接続できます。

- XLR 端子にはマイクを接続できます。Desktop Konnekt 6 は、定評ある IMPACT™ マイク・プリアンプを採用しています。TC NEAR コントロールパネルの Mixer ページでコンデンサー・マイク用 48V ファンタム・パワーの設定を行えます。同じページから、低出力マイク用のブースト機能も設定できます。



マイクとインストゥルメントを切り替えながら使用する際に、配線を毎回変更する必要はありません。3つの入力端子にマイクとインストゥルメントを接続したままで、Scene ボタンで使用する入力構成を選択できます。

## TC NEAR コントロールパネル / MIXER - ミキサー・ページ



### TC NEAR コントロールパネル MIXER - ミキサー・ページ

- Mixer (ミキサー) タブをクリックすると、ミキサー・ページに移動します。
- ノブとフェーダーを動かすには、左マウスを上下にクリック・ドラッグします。

Mixer ページの本セクションでは、3 つの Scene (シーン) を切り替えられます。

シーンとは、本体のセットアップに関連する設定を切り替えるためのプリセットのような機能を果たし、次の設定を記憶します。

- 48V オン/オフ
- ブースト・オン/オフ
- パン
- エフェクト・センド
- リバープ設定

シーンを変更すると、最後の設定がシーンに反映されます。ストア (保存) 操作は特別必要ありません。

- 1 SCENE (MIC+INST) - シーン (マイク+インストゥルメント)**  
MIC (XLR) と Line/Inst Right 端子を使用します。
- 2 SCENE (DUAL INST) - シーン (デュアル・インストゥルメント)**  
Line/Inst Left と Line/Inst Right 端子を使用します。2 つのチャンネルは個別のモノラル・チャンネルとして扱われます。
- 3 SCENE (STEREO IN) - シーン (ステレオ・イン)**  
Line/Inst Left と Line/Inst Right 端子を使用します。1 系統のステレオ・チャンネルとして扱われます。



マイクとインストゥルメントを切り替えながら使用する際に、配線を毎回変更する必要はありません。3 つの入力端子にマイクとインストゥルメントを接続したままで、Scene ボタンで使用する入力構成を選択できます。



## CHANNEL STRIP - チャンネル・ストリップ

### 4 メーター・セクション (両チャンネル)

メーターは、インプット・レベルを示します。最善の S/N 比を得るには、クリップしない範囲でピークを極力 0 dB に近づけます。ゲインは、入力元の機器の出力と Desktop Konnekt 6 の Gain 1/2 ノブで調節します。

### 5 PAN/BALANCE - パン/バランス

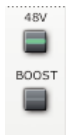
Mic+Inst か Dual Inst シーンの場合、各チャンネルのパンを調節します。Stereo In シーンの場合、左右チャンネルのバランスを調節します。

### 6 SEND - センド

M40 スタジオ・リバーブへのエフェクト・センドを調節します。

## MICROPHONE CHANNEL - マイク・チャンネル

次のパラメータは、マイクロフォン・チャンネルのみで有効です。



### 7 48V ファンタム・パワー

外部ファンタム・パワーを必要とするコンデンサー・マイクを接続する場合にオンにします。

### 8 BOOST - ブースト

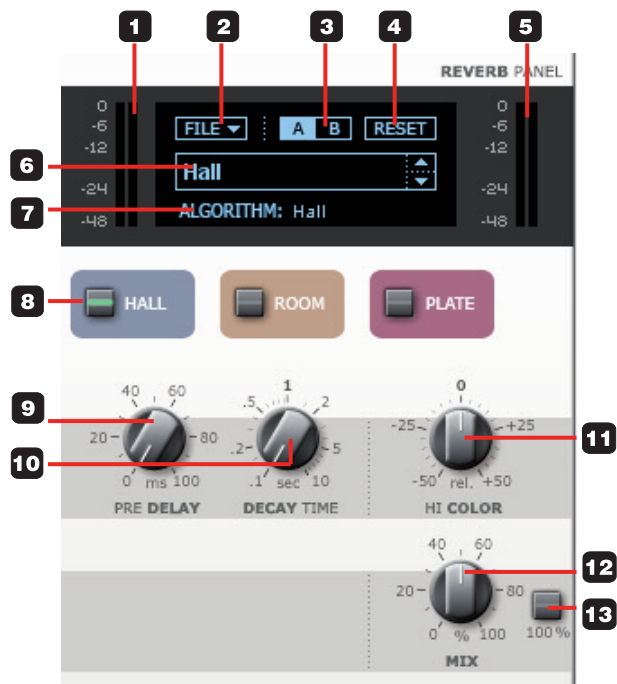
低出力のマイクを接続している場合にオンにします。

### 9 ラベル

ミキサー・チャンネルの名称は変更できます。チャンネルのラベル名をクリックし、新しい名称を入力します。

## M40 スタジオ・リバーブ

M40 スタジオ・リバーブはシンプルな操作性を特徴とするモニタリングとミキシング用のリバーブです。TC Near コントロールパネル内のキュー・リバーブと VST/AU 版の 2 つが用意されています。TC NEAR 版は TC NEAR コントロールパネルが開いている場合にのみ有効で、レコーディング時に奏者/シンガー用の優れたキュー・リバーブとして使用できます。VST/AU 版は Desktop Konnekt 6 が接続されている状態でのみ起動します。

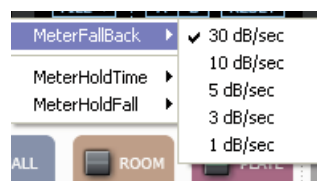


### 1 インプット・メーター

M40 スタジオ・リバーブのインプット・メーターです。メーターを左マウスボタンでクリックすると、メーターのオプションが選択できます。

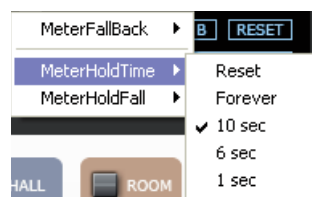
### Meter FallBack - メーター・フォールバック

メーターがピーク後に元に戻る速度を指定します。秒あたりの dB が大きい程、高速となります。



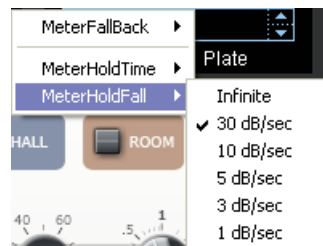
### Meter HoldTime - メーター・ホールド・タイム

オーバーロードが検知された際にオーバーロード LED が点灯する時間を指定します。



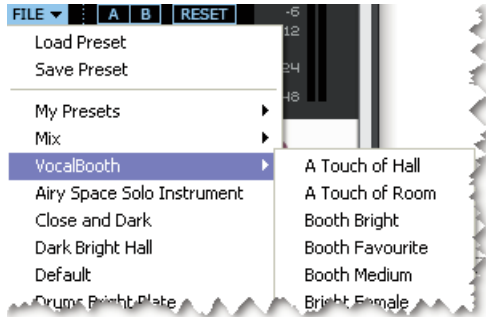
### Meter HoldFall - メーター・ホールド・フォール

オーバーロード LED が点灯した後に通常のメータリングに戻る際の速度を指定します。



## 2 FILE - ファイル

File ボタンを押すとファイル・メニューが開き、プリセットのロード（呼び出し）とセーブ（保存）操作が行えます。



### Load - ロード

Load を選択すると、共有フォルダを含む、システム上で読み込み権限のある任意のフォルダを選択できます。デフォルトでは、Kon-nekt プリセットのデフォルト位置からロードされます。

### Save - セーブ

Save を選択すると、共有フォルダを含む、システム上で書き込み権限のある任意のフォルダを選択できます。デフォルトでは、TC NEAR コントロールパネル・プリセット保存用のデフォルト位置に保存を行います。

### My Presets - マイ・プリセット

ユーザーが作成したプリセットにアクセスします。ドロップダウン・メニューには、デフォルト位置のプリセットのみが表示されます。

## 3 A/B

A/B 比較機能で、二つの設定を比較しながら作業を進めることができます。

プリセットの操作をはじめた段階では、A/B ボタンは未選択の状態となります。



この状態は、A と B の内容は同一で、比較を行なう内容がないことを示します。

パラメータを一つでも変更すると、メモリー「A」がアクティブとなり、選択されます。



パラメータの変更内容は全て「A」に反映されます。「B」に変更すると、始点に戻り、そこからの変更は全て「B」に反映されます。A/B ボタンを押すごとに、この二つの状態が切り替わります。

A/B ボタンを押すたびに、二つの設定が切り替わります。



A/B メモリーは、あくまでも一時的な設定の保存場所です。プリセットの保存は、現在選択されているメモリー場所のみを保存します。他の（隠れた）メモリー場所の設定は、保存されません。

## 4 RESET - リセット

Reset ボタンを押すとメモリーがクリアされ、プリセットがリコールされた元の状態に戻ります。

## 5 アウトプット・メーター

M40 スタジオ・リバーブのアウトプット・メーターです。メーターのオプションについては、「インプット・メーター」の解説をご参照ください。

## 6 プリセット名

リコールされているプリセットの名称です。右側の上下矢印ボタンでプリセットを切り替えられます。

## 7 ALGORITHM - アルゴリズム

選択されているリバーブ・アルゴリズムを表示します。Hall（ホール）／Room（ルーム）／Plate（プレート）を選択できます。

# M40 スタジオ・リバーブ

## 8 アルゴリズム・セレクト・ボタン

M40 スタジオ・リバーブには次の3つのアルゴリズムが用意されています。

### Hall - ホール

比較的大きいホールを想定し、ナチュラルな音響特性を念頭にデザインされています。中間から長めのディケイタイムを要求する素材に優れた適応性を発揮する、ヴォーカルに特に適した汎用性の高いリバーブです。

### Room - ルーム

内装された比較的小さい部屋を想定しています。多くの反射は内装の柔らかい素材により吸収され、音の反射と残響の持続は壁面や窓、一部の家具などが主成分となります。ほとんどの楽器で使用できます。

### Plate - プレート

デジタル世代以前のリバーブ機は、反響するスプリングか大きな鉄板を用いてリバーブの効果を生成していました。鉄板を使用した機器はプレート・リバーブと呼ばれ、拡散的でブライトな音を特徴としています。プレート・アルゴリズムは、多くのパーカッシブな楽器で効果的に使用できます。

## 9 PRE DELAY - プリディレイ

原音とリバーブの拡散音場の間に挿入される短いディレイです。リバーブ音が原音の輪郭を損なわない様に原音とリバーブを分離させる効果が得られます。

## 10 DECAY TIME - ディケイ・タイム

余韻の減衰時間を指定します。この時間は、リバーブの拡散音場がおよそ 60 dB 減衰する時間として定義されます。

## 11 HI COLOR - ハイ・カラー

リバーブの「カラー」を、調節します。ダークからクリस्पでブライトなトーンまで、設定によってリバーブの特性が大幅に変化します。

## 12 MIX - ミックス

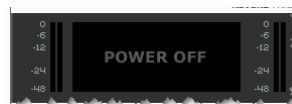
ドライ（ダイレクト）音とこのエフェクト・ブロックのエフェクト音のミックス・バランスを決定します。DAW 側で M40 スタジオ・リバーブをインサート・エフェクトとして使用する場合がございます。

## 13 100%

Mix を無効にして、リバーブを 100% ウェットな状態で出力します。M40 を SEND・エフェクトまたはレコーディング時のキュー・リバーブとして使用する場合にオンにします。

## M40 スタジオ・リバーブについて - 補足

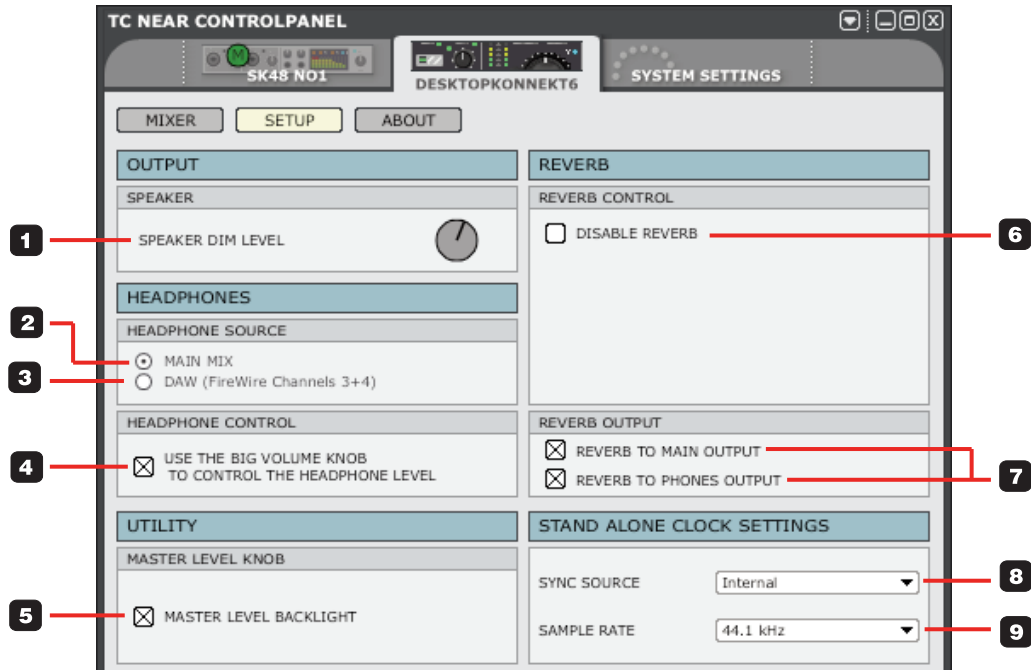
- TC NEAR コントロールパネルが開いている時のみ使用できます。
- リバーブをオフにしている場合には、CPU パワーは消費しません。Desktop Konnekt の Reverb LED が消えている場合は、リバーブがオフの状態です。
- Desktop Konekt 6 の Reverb ノブを反時計回りに回しきった状態では、ディスプレイには「Power Off」（パワー・オフ）と表示されます。



- Setup（セットアップ）ページで Reverb Disabled（リバーブ・ディスエーブル）機能をオンにすると、ディスプレイには「Disabled」と表示されます。



- M40 スタジオ・リバーブは、4 倍サンプリングレート（176.4 kHz または 192 kHz）には未対応です。



## OUTPUT - アウトプット

### 1 SPEAKER DIM LEVEL - スピーカー・ディム・レベル

Desktop Konnekt 6 本体のフロントパネルにある Dim ボタンを押すと、瞬時に低いレベルに切り替えられます。ここで、そのレベルを指定します。

## HEADPHONES - ヘッドホン

ヘッドホンでモニタリングするソースを選択します。

### 2 HEADPHONE SOURCE - MAIN MIX

#### ヘッドホン・ソース - メイン・ミックス

Main Mix を選択すると、DAW からの信号 (FireWire チャンネル 1+2) と Desktop Konnekt 6 の物理入力の信号をモニタリングします。

### 3 HEADPHONE SOURCE - DAW (FIREWIRE CHANNELS 3+4)

#### ヘッドホン・ソース - DAW (FIREWIRE チャンネル 3+4)

DAW (Firewire Channels 3+4) を選択すると、コンピュータからヘッドホン用に独立した出力を送ることができます。これは、DJ 等が多く使用する機能です。この機能を使用するには、ホスト・アプリケーションの出力を FireWire チャンネル 3+4 (「Phones」) に設定します。

### 4 HEADPHONE CONTROL - ヘッドホン・コントロール



チェックが外れている場合、大型ボリューム・ノブはモニター・アウトのマスター・ボリュームをコントロールし、Phones ノブがヘッドホンのレベルをコントロールします。

## SETUP - セットアップ・ページ



チェックが入っている場合、大型ボリューム・ノブはモニター・アウトのマスター・ボリュームとヘッドホンのレベルを両方コントロールします。この場合、Phones ノブはヘッドホンの最大ボリュームをコントロールします。

### UTILITY - ユーティリティ

#### 5 MASTER LEVEL KNOB - マスター・レベル・ノブ

チェックを外すと、大型マスター・レベル・ノブの赤いバックライトが消えます。



### REVERB - リバース

#### 6 REVERB CONTROL - DISABLE REVERB

リバーブ・コントロール - ディスエーブル・リバーブ

Desktop Konnekt 6 本体の Reverb ノブで M40 スタジオ・リバーブをオン/オフできますが、リバーブを常にオフにしたい場合は、「Disable Reverb」にチェックを入れます。



この項目をオフにしても、VST/AU 版に影響はありません。Mixer ページのリバーブ・セクションは、次のように表示されます。



#### 7 REVERB CONTROL - REVERB TO MAIN OUTPUT & REVERB TO PHONES OUTPUT - リバーブ・コントロール - リバーブ→メイン・アウトプット & リバーブ→フォン・アウトプット

Reverb to Main Output を選択すると、リバーブはメイン・アウトプットに送られます。Reverb to Phones Output を選択すると、リバーブはフォン・アウトプットに送られます。両方、いずれか一つ、またはなしを選択できます。



M40 Studio Reverb をキュー・リバーブとしてヴォーカリスト/奏者のヘッドホンに送りながらコントロール・ルームではドライの信号を聴きたい場合には、Reverb to Phones Output オプションのみを選択します。

### STAND ALONE CLOCK SETTINGS -

#### スタンドアロン・クロック設定

チェックを外すと、大型マスター・レベル・ノブの赤いバックライトが消えます。

Desktop Konnekt 6 をスタンドアロン機として使用する場合は設定です。Desktop Konnekt 6 の FireWire 接続が外れた際（FireWire LED が消灯した場合）にここでの設定が反映されます。



Desktop Konnekt 6 をスタンドアロンで使用中には、M40 スタジオ・リバーブは使用できません。

#### SYNC SOURCE - シンク・ソース

Desktop Konnekt 6 はデジタル I/O を装備していないため、常に「Internal」（インターナル - 内部クロック）となります。この設定は変更できません。

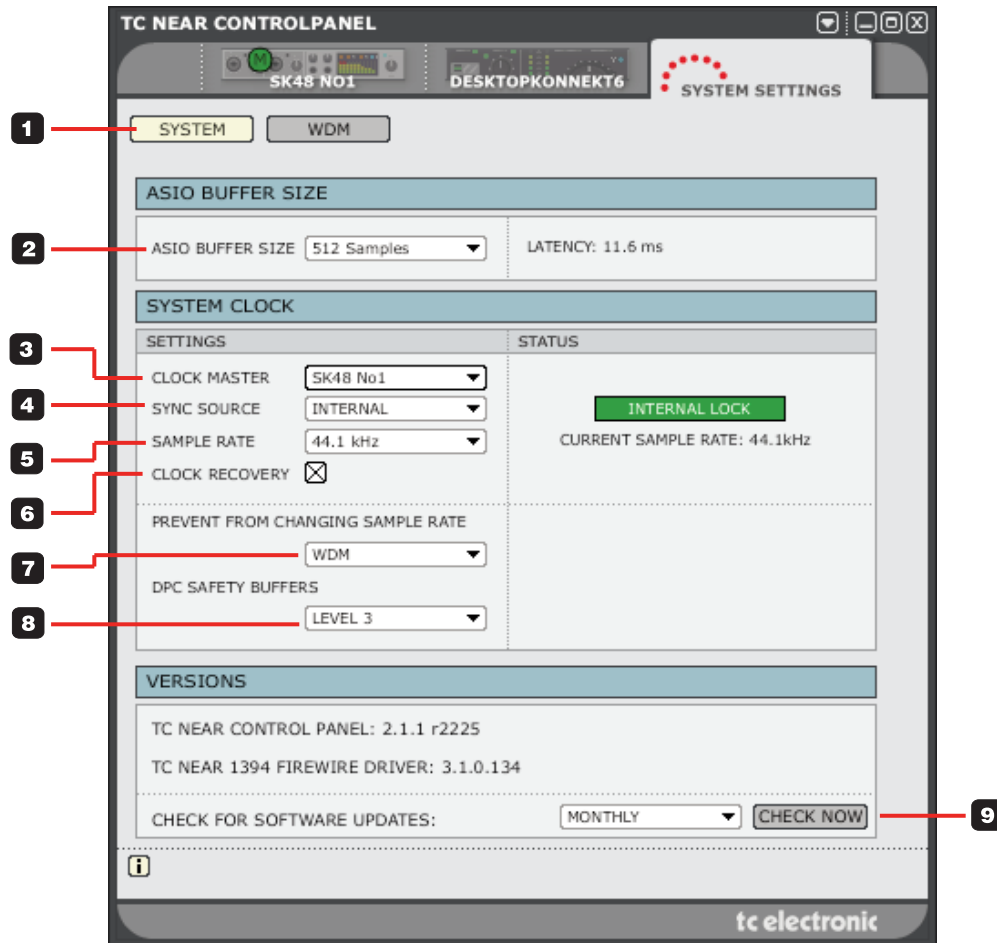
#### SAMPLE RATE - サンプル・レート

選択肢は次の通りです：

44.1 kHz / 48 kHz / 88.2 kHz / 96 kHz

# SYSTEM SETTINGS - システム・セッティング・ページ

System Settings (システム・セッティング) ページの解説は、Konnektシリーズの全製品に共通です。一部のパラメータはKonnektシリーズの特定のモデルでのみ有効で、その場合は該当機種が記されています。複数台のKonnektを接続している場合、System Settings ページの設定は全ての機器に反映されます。



# SYSTEM SETTINGS / SYSTEM - システム・セッティング/システム・ページ

## BUFFER SIZE - バッファ・サイズ

### 1 SYSTEM - システム

このタブをクリックすると、システム設定のページに移動します。

### 2 ASIO BUFFER SIZE - ASIO バッファ・サイズ (PCのみ\*)

バッファ・サイズは、32～8192 サンプルに設定できます。デフォルトの設定は512 サンプルです。ドライバーのレイテンシーはms (ミリ秒) の単位でも表示されます。通常この設定はクリックやポップ・ノイズが生じた場合にのみ変更します。



表示されるレイテンシーは、ドライバー・レイテンシーのみの数値です。セットアップ全体のレイテンシーはコンバータやホスト (DAW)、プラグインなどのレイテンシーを加算する必要があります。

\* マッキントッシュでは、バッファはアプリケーションから設定します。例えば、Logic Pro の場合は、Audio / Hardware Drivers ページから設定を行います。また、クリップやポップ・ノイズは、クロックなど他の原因で生じる場合もございます。それらの問題を先に解決してください。

## SYSTEM CLOCK - システム・クロック

### 3 CLOCK MASTER - クロック・マスター

セットアップ全体の中で、システム・クロック・マスターとなるKonnektを選択します。

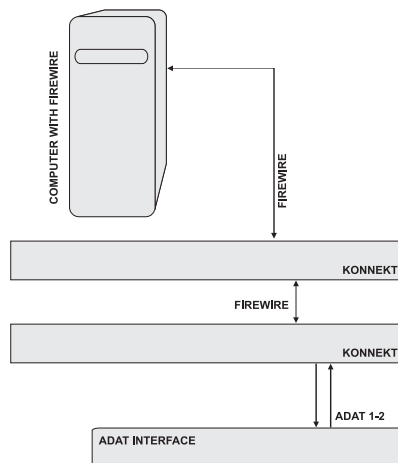
デジタルのセットアップでは、接続されている全ての機器が同じサンプルレートで作動する必要があります。クロック・マスター機はこのサンプルレートを決定し、そのサンプルレートのクロックをセットアップの他の機器に供給します。デジタルのセットアップでは、使用するクロック・マスターは必ず1台のみとなります。ここでコンピュータ自体を選択することはできず、クロック・マスター機は必ずオーディオ・インターフェイスとなります。しかしながら、クロック・マスター機を外部機器に同期することは可能です。次項「SYNC SOURCE」をご参照ください。

### 4 SYNC SOURCE - シンク・ソース

クロック・マスターが同期する機器を指定します。DICE™ FireWire チップは極めて優れたクロックを供給するため、多くの場合は「Internal」(インターナル) が最善の選択肢となります。しかしながら本体のデジタル入力に接続した外部デジタル機器に同期させることも可能で、この場合はDICE™ チップのJetPLL ジッター・リジェクション・テクノロジーによる利点を享受できます。

\* Desktop Konnekt 6 はデジタル入力を装備していません。

### 例1: STUDIO KONNEKT 48 をクロック・マスターとして使用する



### CLOCK MASTER と SYNC SOURCE の設定

- このセットアップは、FireWire で接続された2台のStudio Konnekt 48とコンピュータ、そしてADAT インターフェイスで構成されています。
- 2台のStudio Konnekt 48にはそれぞれ「SK48 No1」と「SK48 No2」という名称を与えています (名称の指定はSETUP ページで行います)。

ここで、セットアップ全体をADAT インターフェイスに同期させます。

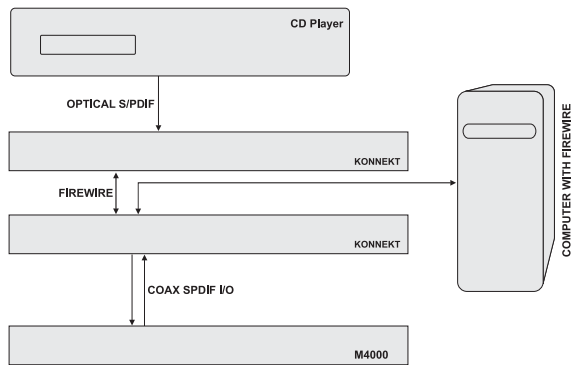


# SYSTEM SETTINGS / SYSTEM - システム・セッティング/システム・ページ

- ここではSK48 No1 がクロック・マスターとなるため、System Settings ページの Clock Master を「SK48 No1」に設定します。
- クロック・マスター機を ADAT インターフェイスに同期させるので、System Settings ページの Sync Source を「ADAT」に設定します。

基本的な設定は以上です。Sample Rate の設定が必要となるのは、インターナル・クロックを選択した場合のみです。

## 例2: STUDIO KONNEKT 48 のジッター・エリミネーション (この例は Desktop Konnekt 6 には該当しません)



このセットアップは、CD プレイヤーを含みます。一般的な CD プレイヤーはマスター機としてしか使用できず、デジタル・クロックの観点から設定を行うことはできません。

Studio Konnekt 48 は極めて高いクロックの精度を確保しているだけでなく、外部ソースのデジタル信号を使用する際に信号を最適化する優れたジッター除去を行います。

- CD プレイヤーは、オプティカル S/PDIF 経由で SK48 No1 に接続されています。
- System Settings ページの Clock Master を「SK48 No1」に、Sync Source を「Optical S/PDIF」に設定します。



- もう一台の Konnekt (SK48 No2) には Reverb 4000 が接続されており、そちらは SPDIF 1/2 のスレーブとします。

## 5 SAMPLE RATE - サンプルレート

44.1 kHz  
48 kHz  
88.2 kHz  
96 kHz  
176.4 kHz  
192 kHz

サンプルレートは、通常ホスト・アプリケーション側で設定が行われます。例えば、44.1 kHz のプロジェクトで再生を行うと、サンプルレートは自動的に 44.1 kHz となります。後に 48 kHz のソングをロードして再生を行うと、サンプルレートは 48 kHz に切り替わります。Konnekt はアプリケーションからサンプルレートについての情報を得ますが、Konnekt が実際のクロックを供給します。

## 6 CLOCK RECOVERY & LOCK STATUS -

クロック・リカバリー & ロック・ステータス  
(Studio Konnekt 48 のみ該当)

Clock Recovery がオフの場合、状況に応じて次のステータスを表示します。

### Internal Lock - インターナル (内部) ロック

クロック・マスターの Studio Konnekt 48 にシステムがロックしていることを示します。

## SYSTEM SETTINGS / SYSTEM - システム・セッティング/システム・ページ

---

### External Lock - エキスターナル (外部) ロック

クロック・マスターの Studio Konnekt 48 が、接続されている外部デジタル機器にロックしていることを示します。

### No Reference - レファレンスなし

クロック・マスターの Studio Konnekt 48 が、接続されている外部デジタル機器に正しく外部シンクできないことを示します。接続と、外部機器の設定をご確認ください。

Studio Konnekt 48 は TC Applied Technologies 社の DICE II™ チップによるユニークなクロック管理を行なえます。不安定な外部クロックに対して様々な対応法を持ち、信号のドロップアウトが起きずに作業が中断されることのないワークフローの構築に役立ちます。

Clock Recovery がオンの場合、状況に応じて次のステータスを表示します。

### Auto Coast, No Reference- 自動コースト、レファレンスなし

外部レファレンス同期が失われたことを示します。レファレンス機の電源がオフになったり、ケーブルが抜かれた等の原因が考えられます。この場合、Studio Konnekt 48 の「自動コースト」機能が有効となり、瞬時に最後に受信した有効なクロックへとシフトします。

### Auto Coast, Bad Reference - 自動コースト、無効レファレンス

無効な外部レファレンス同期信号を受信したことを示します。レファレンス機からの信号が許容誤差 (± 1.5%) の範囲外にあるか、Studio Konnekt 48 が Auto Coast, No Reference の状態になった後に無効なレファレンス・クロックを受信した時に表示されます。この場合、Studio Konnekt 48 の「自動コースト」機能が有効となり、瞬時に最後に受信した有効なクロックへとシフトします。

### Auto Internal, No Reference - 自動インターナル、レファレンスなし

有効な外部レファレンス同期信号を受信したことがないことを示します。レファレンス機の電源がオフになっていたり、ケーブルが抜かれた等の原因が考えられます。この場合、Studio Konnekt 48 の「自動インターナル」機能が有効となり、状況下では最善の選択肢である内部クロックの使用に切り替わります。

### Auto Internal, Bad Reference - 自動インターナル、

### 無効レファレンス

有効な外部レファレンス同期信号を受信したことがなく、無効な信号を受信していることを示します。レファレンス機から受信した信号が常に許容誤差 (± 1.5%) の範囲外にあったか、Studio Konnekt 48 が Auto Internal, No Reference の状態になった後に無効なレファレンス・クロックを受信した時に表示されます。この場合、Studio Konnekt 48 の「自動インターナル」機能が有効となり、状況下では最善の選択肢である内部クロックの使用に切り替わります。

## 7 PREVENT FROM CHANGING SAMPLE RATE

### **サンプルレートの変更を制限**

Clock Recovery がオフの場合、状況に応じて次のステータスを表示します。

システム上のアプリケーションがサウンドを再生 (OS のアラート音、iTunes 等) すると、ほとんどの場合においてサウンドカード/Konnekt のサンプルレートを変更することを試みます。これは音楽の製作中には望まれない動作です。こういった原因による中断を防ぐために、次のオプションが用意されています。

### WDM

このオプションを選択すると、DAW のプロジェクトからサンプルレートを変更する設定となり、Windows のアラート・サウンドやメディア・プレイヤーが不意にサンプルレートを変更することを防ぎます。

### WDM + ASIO

このオプションを選択すると、TC NEAR コントロールパネルからのみサンプルレートの変更が行えるようになります。

### None - なし

このオプションを選択すると制限は行われず、ウィンドウズのサウンドや DAW プロジェクト等、全てのアプリケーションがサンプルレートを変更することが可能となります。

## SYSTEM SETTINGS / SYSTEM - システム・セッティング/システム・ページ

---

### 8 DPC SAFETY BUFFERS - DPC セーフティ・バッファ (PC のみ)

DPC スパイクは、様々な要因で生じます。スパイクが生じるとアプリケーションが瞬間的に再生を停止します。スパイクを防止するセーフティ・バッファのレベルを指定できます。

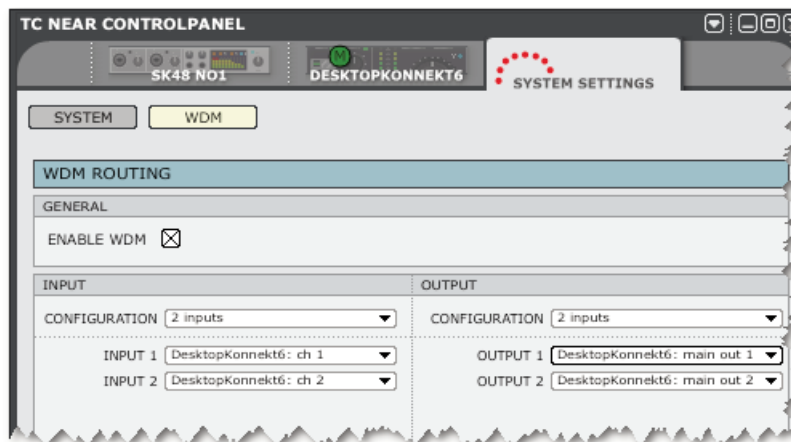
Normal (ノーマル) / Level (レベル) 1 / Level 2 / Level 3

レベルを上げるとシステムのレイテンシーも増しますので、必要最小限のレベルに設定してください。

### 9 CHECK FOR SOFTWARE UPDATES -

#### ソフトウェア・アップデートを確認

コンピュータがインターネットに接続されている場合、ボタンを押すと [www.tcelectronic.com](http://www.tcelectronic.com) にアクセスし、ソフトウェアのアップデートを確認します。



## GENERAL - 一般

### ENABLE WDM - WDM を有効にする

WDM は Windows のオーディオ・ドライバー・システムで、Windows のサウンドやメディア・プレイヤー、その他 ASIO 非対応のアプリケーションなどで使用します。PowerDVD 等のアプリケーションも WDM ドライバーを使用します。



使用するオーディオ・アプリケーションが ASIO 対応の場合は、ASIO ドライバーを使用することをお勧めします。

## INPUT/OUTPUT - インプット / アウトプット

### CONFIGURATION - コンフィギュレーション

Desktop Konnekt 6 は 2 つのインプット・チャンネルと最大 4 つのアウトプット・チャンネルを持ちます。

Desktop Konnekt 6 は通常ステレオで使用されるため、入力のデフォルト設定は「2 inputs」、出力は「Stereo」です。選択肢は次の通りです。

### Input Configuration - インプット・コンフィギュレーション

1 input (インプット) / 2 inputs / 4 inputs / 6 inputs / 8 inputs

### Output Configuration - アウトプット・コンフィギュレーション

Direct (ダイレクト) / Mono (モノ) / Stereo (ステレオ) / Quad (クオッド) / Surround 5.1 (5.1 サラウンド) / Surround 7.1

インプットは、必ず「2 inputs」でご使用ください。

### INPUT - インプット

Desktop Konnekt 6 がコンピュータに接続されている唯一の Konnekt 機の場合、「DesktopKonnekt6: ch1」と「DesktopKonnekt6: ch2」のいずれかを選択できます。



複数台の Konnekt を接続している場合には、他の選択肢も表示されます。

### OUTPUT - アウトプット

Desktop Konnekt 6 がコンピュータに接続されている唯一の Konnekt 機の場合、アウトプット毎に次のいずれかを選択できます。

DesktopKonnekt6: main out 1

DesktopKonnekt6: main out 2

DesktopKonnekt6: phones out 1

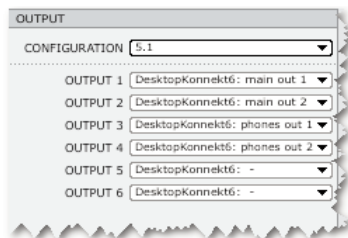
DesktopKonnekt6: phones out 2

## SYSTEM SETTINGS / WDM - システム・セッティング / WDM ページ (WINDOWS のみ)

### 例

上記のスクリーンショットでは、ステレオ出力で、アウトプット1と2にそれぞれ「main out 1」と「main out 2」が割り当てられています。

アウトプットの構成で「5.1」を選択した場合には、次の選択肢が表示されます。

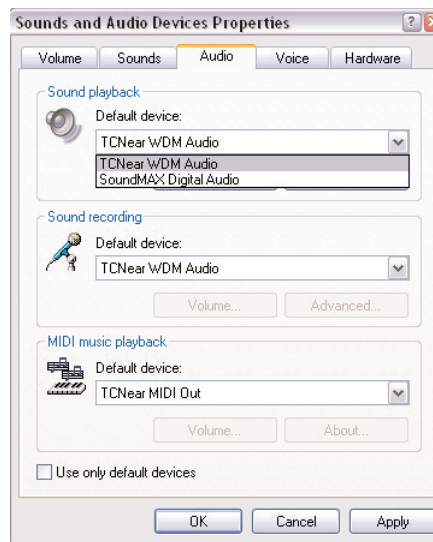


複数の Konnekt を接続している場合には、ドロップダウンメニューに全機のインプットが表示されます。

### WDM を使用する際の Windows 側の設定

WDM で Konnekt をを使用する場合、Windows 側でも設定が必要となります。

まずは、コントロールパネル / サウンドとオーディオデバイスプロパティ / オーディオを選択します。



音の再生と録音両方で「TC Near WDM Audio」を選択します。

Konnekt は、WDM と ASIO の同時使用に対応しています。メディア・プレイヤーや DVD の再生中にオーディオ・アプリケーションで作業を行う、といったことも可能です。

# 付録

## FAQ

### TC NEAR がコンピュータのスタンバイ・モードを阻止する場合

コンピュータをスタンバイ・モードにする前に、TC NEAR コントロールパネルを閉じてください。コンピュータは、機種によってスタンバイとハイパーネーションの扱いが異なります。コンピュータを再度つけた際にオーディオ・インターフェイスの安定性が損なわれるのを防ぐために、TC NEAR コントロールパネルは事前に閉じる必要があります。多くの場合、Cubase や Logic 等のホスト・アプリケーションも閉じる必要があります。

### リバーブが聞こえない

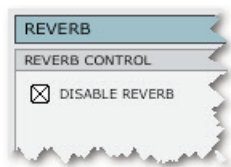
いくつかの原因が考えられます。

#### コントロールパネルが開いていない

TC NEAR コントロールパネルを開いている必要があります。

#### Disable Reverb が選択されている

TC NEAR コントロールパネルの Setup ページでこのボックスのチェックを外します。



## ヒント

### DESKTOP KONNEKT 6 の接続を外す

Desktop Konnekt 6 をオフにしたり接続を外す前に、TC NEAR コントロールパネルを閉じることをお勧めいたします。

### ツール・ティップ

マウスをボタン/ノブ/ボックスの上に移動すると、コントロールパネル画面下部の「!」の脇にツール・ティップが表示されます。

## キーボード・ショートカット

次のショートカットが使用できます。

機能	ショートカット
ページ移動	
ミキサー	M または 1
セットアップ	S または 2
About...	A または 5
System Settings	コントロール + S
機器切り替え	コントロール + 1 ~ 4

## ソフトウェアのアップデート

TC NEAR コントロールパネルと Desktop Konnekt 6 のソフトウェアはアップデートされることがあります。www.tcelectronic.com で最新版をご確認の上、ダウンロードされることをおすすめいたします。

ダウンロードしたソフトウェアのインストール手順はシンプルです。

- TC NEAR コントロールパネルを閉じます。
- Desktop Konnekt 6 本体をオフにします。
- インストーラをダブルクリックして起動します。
- 画面の指示に従います。

インストール方法についての詳細は、インストール・ガイドをご参照ください。

### ファームウェアのアップデート

ファームウェアとはハードウェアの作動に必要となる、本体に埋め込まれたコンピュータ・プログラムです。ソフトウェア・アップデートによっては、ファームウェアの更新が必要になることがあります。ファームウェアの更新は、「About」ページから行います。

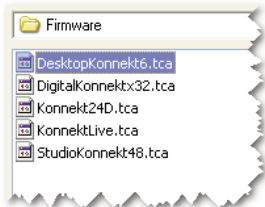


ファームウェアのアップデート時には、FireWire バスパワー駆動はお勧めいたしません。Update Firmware ボタンを押す前に、付属の電源サプライを接続してください。

#### ファームウェアのアップデート手順

Update Firmware ボタンをクリックします。機種に該当するファームウェア・ファイルを選択し、Open をクリックします。

例：Desktop Konnekt 6 のファームウェアをアップデートする場合



## FireWire バスパワー

Desktop Konnekt 6 は、FireWire のバスパワー駆動に対応しています。FireWire のバスパワーを使用する場合、Konnekt は FireWire から電源を得るため、付属の電源サプライを使用する必要はありません。

バスパワーについては、次の留意点がございます。

### 4 ピン FIREWIRE コネクター

全ての FireWire ポートがバスパワーによる電源供給に対応している訳ではありません。一部のラップトップは、4 ピンのコネクターを使用しています。これらは、バスパワーによる電源供給を行えません。

### 単独の FIREWIRE バスに複数台の KONNEKT を接続する場合

単独の FireWire バスに複数台の Konnekt を接続する場合、バスパワー駆動させられるのは一台のみです。他の機器は電源サプライをご使用ください。

### バスパワーが不足している場合

6 ピンの端子を装備している場合でも、ラップトップによっては1台の Konnekt を正しく作動させるのに十分な容量の電源を供給できないことがあります。Konnekt をご使用の際に動作上の問題が生じた場合、まずは外部電源サプライを接続し、それで問題が解決するかどうかをご確認ください。

## FireWire ケーブルの抜き差し

FireWire ケーブルの抜き差しは、TC NEAR コントロールパネルを閉じた状態で行ってください。ホットプラグ/アンプラグには未対応です。

# 付録 – 技術仕様

## デジタル入出力

FireWire:	IEEE 1394a, S400, IEC 61883
デジタルIOエンジン	TC DICE JR, 全IOフォーマット時

## クロック及びジッター

内部サンプリングレート:	44.1 kHz, 48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz, 176.4 kHz, 192 kHz
ジッター・リジェクション・エンジン:	TCAT DICE JR 内蔵 JET™ テクノロジー
ジッター・リジェクション・フィルター:	< -3 dB @ 10 Hz, < -100 dB @ 600 Hz
AD/DA コンバージョン・ジッター:	< 42 ps RMS, BW: 100 Hz ~ 40 kHz
処理遅延 DIO @ 96 / 48 kHz:	0.15 / 0.3 ms

## アンバランス・ライン / Hi-Z 入力 - チャンネル 1 / 2

コネクタ:	1/4" フォーンジャック
センシティビティ・レンジ	-10 dBu ~ +18 dBu
インピーダンス:	1 M Ω
フルスケール入力レベル:	+18 dBu
THD:	< -90 dB (0.001%) @ 1 kHz, -1 dBFS
ダイナミックレンジ:	< 102 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
周波数特性:	+0 / -0.5 dB, 20 Hz ~ 20 kHz @ -10 dBu ~ +18 dBu
クロストーク:	< -85 dB, 20 Hz ~ 20 kHz

## ADC

A/D 変換:	24 ビット, 128 × オーバーサンプリング・ビットストリーム
A/D 変換遅延:	0.68 ms (44.1 kHz) / 0.63 ms (48 kHz)

## マイク入力 - チャンネル 1

コネクタ:	XLR
フルレンジ感度:	+10 ~ -50 dBu (BOOST 含む)
マイク・ブースト:	12 dB
インピーダンス:	1000 Ω
NF @ Rg = 150 ohm, 最大ゲイン:	< 3 dB
EIN @ Rg = 150 ohm, 最大ゲイン:	< -128 dBu
THD+N, 最小ゲイン:	< -92 dB (0.001%) @ 1 kHz, -1 dBFS
ダイナミックレンジ, 最小ゲイン:	< -106 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
クロストーク:	< -70 dB, 20 Hz ~ 20 kHz

## ライン出力, チャンネル 1 / 2

コネクタ:	1/4" フォーンジャック, グラウンド・センシング・デザイン
インピーダンス:	< 100 Ω
レベル・レンジ:	+13 dBu
THD:	< -95 dB (0.002%) @ 1 kHz, -1 dBFS
ダイナミックレンジ:	< -102 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
周波数特性:	+0 / -0.1 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
クロストーク:	< -100 dB, 20 Hz ~ 20 kHz

## DAC

D/A 変換:	24 ビット, 128 × オーバーサンプリング・ビットストリーム
D/A 変換遅延:	0.70 ms (44.1 kHz) / 0.65 ms (48 kHz)

## ヘッドホン出力

コネクタ:	1/4" フォーンジャック (ステレオ)
インピーダンス:	80 Ω
ゲイン・レベル・レンジ:	-100 dBu <> +20 dBu (負荷インピーダンスなし)
THD:	< -87 dB (0.002%) @ 1 kHz, -1 dBFS @ 300 Ω
ダイナミックレンジ:	> 103 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
周波数特性:	+0 / -0.1 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
クロストーク:	< -81 dB, 20 Hz ~ 20 kHz
パワール (40 Ohm 負荷時):	200 mW
パワール (600 Ohm 負荷時):	93 mW

## EMC

準拠基準:	EN 55103-1 and EN 55103-2, FCC part 15, Class B, CISPR 22, Class B
-------	--

## 安全

準拠規格:	IEC 60065, EN 60065, UL6500 and CSA E60065 CSA FILE #LR108093
-------	---

## 環境

動作環境温度:	0 °C ~ 50 °C (32 °F ~ 122 °F)
保存環境温度:	-30 °C ~ 70 °C (-22 °F ~ 167 °F)
湿度:	最大 90 % (結露なきこと)

## コントロール・インターフェイス

FireWire (DAW):	IEEE 1394a, IEC 61883
-----------------	-----------------------

## 一般

寸法:	185 × 176 × 64 mm
重量:	0.8 kg
仕上げ:	アクリル及びアノダイズド・アルミニウム・フロント・パネル。プレート及びコーテッド・シャーシ。
PPM メーター (チャンネル 1 / 2):	3 LED (各チャンネル)
ステレオ PPM ブリッジ (イン/アウト):	13 LED (各チャンネル)
パワースタバイ (付属):	8 ~ 30 VDC
消費電力:	< 8.4 W
保証:	1年

製品の改良のため、仕様は予告なく変更となる場合がございます。